職場紹介シリーズ⑪

介護保険サービスセンター

「住み慣れた自宅でいつまでも暮らしたい」―そんな想いに応えるために、介護保険制度によってお手伝いするのが「いずみの園介護保険サービスセンター」です。

当センターでは「迅速・丁寧・親切」をモットーに、ケアマネジャーが直接自宅まで訪問して介護相談に応じます。

ケアマネジャーとは介護の知識を幅広く持った専門家です。介護の相談のほかに、介護保険に関する認定申請を含む申請代行・利用者の意向に沿ったケアプランの作成・市町村やサービス事業者との連絡や調整、必要に応じて介護保険施設への入所の紹介等を行います。ご本人やご家族がいつでも安心して相談できるように、24時間365日の連絡体制を確保しています。

ご利用者の方が住み慣れた地域で可能な限り安心・安全に生活できるように、ご本人やご家族の意向に沿って、必要な介護サービスや保健・医療のサービスが受けられるように支援いたします。

スタッフです

職場紹介シリーズ⑫

特養事業部・看護課

「私達はご利用者の健康を守ります」

特養事業部は入所者100名・短期利用者27名で計127名のご利用者が利用されており、居室は本館とヨハネ館に分かれています。

看護課では入所者60名と短期利用者27名に対し看護師6名、ヨハネ館は入所者40名に対し看護師3名で、日々の健康管理を行っています。具体的には、バイタルサインの変化の観察と対応・薬剤管理・栄養管理・排泄管理等が主な業務内容です。その他、介護職員へ医学的知識の伝達を行う等の勉強会も開催しています。

近年、高齢化率の上昇に比例し、ご利用者の重度化が進み医療的処置や対応を多く求められる現状になりました。その中で看護課は特養の特性（生活主体）を活かした視点を重視しながら、他職種と連携協同のもと、ご利用者の安楽に努め、安全で安心なケアの提供を目指します。ご利用者を自分の家族と思い信頼関係を築きながら今後も看護に励みます。

スタッフです

管理栄養士の活動について

栄養課
管理栄養士　中尾　光里

栄養課
管理栄養士　末廣亜由美

「個人個人の嗜好・状態に合った安全で美味しい食事の提供」これが私たちの仕事です。

厨房スタッフ・リハビリ課・看護課・介護課職員と連携をとりながらマリアガーデンやピーターといった乳幼児期・学童期から高齢期までの幅広い年代の食事を提供しています。また、主な取組として特養利用者の下剤使用による負担軽減のため、玄米食の提供も行っています。味のマンネリ化を防ぐため、玄米おはぎやチキンライス玄米・梅玄米といった現行に加え、今後はもっとバリエーションを増やして行きたいと考えております。

その他にも各番地・デイサービスのおやつ作りや副食作りの手伝いや、いずみの森のクッキング教室、先日行われたいずみの園フェスタや楽市・楽座への出店…と食に関するすべてに関わっています。今後も他職種の方と連携をとりながら、『いずみの園の食事が一番』と評判になるような食事の提供に取り組んでまいります。

※管理栄養士：個人を対象に病状や体質など様々な要素を考慮した栄養指導や給食管理を行います。

ボランティア紹介
〈第２回〉

私とボランティア

カメラマンボランティア
田中（たなか） 鞆葵（ともき） 様

60才を越えて初めてボランティアをすることになり、自分に出来るのか不安でしたが、デイサービス課の市川課長より「ただご利用者の皆さんとお話しをしてほしい。」とのことでした。ただそれだけで良いのかと思いながらも、初めてのボランティアをスタートしました。勿論カメラマンボランティアですから、ご利用者の皆さんを撮りながらお話しをさせていただいています。

ご利用者の皆さんの中には、私の親の年齢に近い方がおり、その方達とお話しをしていると親のことを思い出すことがあります。私がご利用者さんを癒やしているつもりが、実は私が癒やされているような気がしました。

ボランティアを始めて気づいたのですが、ボランティアとは特別なものではなく、日常生活の延長の中でいつもやっていることの様に思います。人が生きている限り、周囲の人のお世話になることは当り前、お互いに助け合うからこそ、世の中うまくいくのではないでしょうか。

今、元気にご利用者の皆さんとお話しをしている私も、近い将来お世話になることと思います。これからも出来る限り、ご利用者の皆さんと沢山お話しをし、沢山の笑顔を拝見したいと思います。

これからもよろしくお願いします。

いずみの園フェスタボランティアに参加して

東九州龍谷高等学校
教諭 小林 芳子 様

街路樹が赤や黄に色づき始めた10月20日、清々しい青空の下、第14回いずみの園フェスタが華々しく開催されました。いつも思うことは、参加する度に施設がどんどん充実・進化し、地域社会に根付いているということです。

私も故郷の祖父母や両親と過ごした日々を思い出しながら、餅つきコーナーに参加しました。施設の職員の方々と和やかに談笑しながら、つき上がった25臼の餅をちぎったり丸めたりして楽しく過ごしました。

参加した生徒は、衛生看護科1年生32名、食物科の3年生8名、普通科の3年生6名の46名です。生徒達は柔道部、インターアクトクラブ、チアリーディング部、ライフル射撃部にも所属しており全国、九州大会などに出場したこともあります。また、インターアクトクラブは長年の活動が認められ、厚生労働大臣感謝状を頂くなど文武両道で頑張っています。

ボランティアに参加することで、自分が社会に貢献できていると実感し、思い遣りや感謝の心を育んでいると思えます。これからもずっと生徒と一緒に、このフェスタに参加し、秋の日の思い出を刻んでいけたらと思います。

ボランティアで餅つきをする生徒

海外研修報告
（スウェーデン）

中央サポートセンター
主任 須崎 敏治

今回、財団法人社会福祉振興・試験センター主催の介護福祉士海外研修に応募のお話をいただき、9月1日から14日の2週間、福祉先進国であるスウェーデンで研修する機会を得ることができました。

海外に行くこと自体初めての経験でしたが、とても有意義な日々を過ごさせていただきました。自分の知らない世界、何を見るにも新鮮な気持ちでした。実習でもお世話になった職員、利用者の方々にとても親切に接していただき、心温まる日々を過ごさせていただきました。

福祉先進国と呼ばれるスウェーデンでしたが、日本と福祉制度や社会性に違いはあるものの、福祉現場におけるサービスにはさほど違いはないと感じました。国は違えど福祉の根本的な考え方は同じで、「ご本人の意思を最大限に尊重すること」、「その人の為に考え行動すること」。どの国においてもこのことが、福祉職として追及していかなければならないものと感じました。

今回の海外研修は、自身の人生における一生の宝となりました。この研修の機会を与えてくださいました皆様に心より感謝をいたすとともに、これを励みにさらなる福祉サービスの向上を追及していきたいと思います。

園内研修報告

障がいを持った人の理解について～そして、支援について（お願い）

8月23日（木）18時30分から、職員100名を対象にして標題について大分県立宇佐支援学校中津校副校長岩切義和先生からお話を聞く機会がありました（中津校は来春から中津支援学校となる）。

当園では、来年4月から障がいのある人の働く場の提供する事業を開始する予定があり、開校4年目を迎え、今春高等部から初めての卒業生を送り出した岩切先生から、ユーモアを交えて1時間30分近く講演いただきました。

内容は①障がいをどう捉えるか、見方（考え方）を変えることによって「できることを見る」ことが大切②支援についての視点（より良い方法を考える）③人間の究極の幸せ（愛されること、人に必要とされることなど）などでした。障がいのある子ども達は心がピュアで教えられることが多いこと、生徒さんも役に立っていると感じられれば、時間はかかるが健常者より丁寧な仕事をすること、支援者も子どもの内面を見抜く力を付け、やさしく接しどうしたらわかってもらえるか工夫すること、その子にあわせたサポートをすること、などをお話しされ、最後に支援校が中津市で定着し、福祉の方から支援校への期待を伝えてほしいことを述べられ、有意義な研修を終えました。

園内の花木を探索

いずみの園の敷地内にはたくさんの花木が植樹されています。この花木をシリーズで紹介します。

●モミ

グループホーム「ベテルハウス」の玄関両脇に「モミ」の木が2本あります。

「モミ」は常緑針葉樹で、樹形は美しい円錐型。高さは20～30mになるものもあります。

「モミの木」と言えば、クリスマスツリーをイメージされる方も多いと思いますが、日本でクリスマスツリーに使われるのは「ウラジロモミ」と呼ばれる種類で、「モミ」とは違います。

「モミ」の名の由来は、風にもみ合うことから「揉む」を語源とする説、萌黄が美しいからとする説、神聖な木で信仰の対象となっていることから「臣木（おみのき）」とする説などいくつかの説があるようです。

チャプレン通信

堤　健生

「人は倒れても打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていて下さる」

旧約聖書詩編37・24

新聞に大きく内閣支持率19％とでていました。初めは高かったのに今ではこんなに低くなったのでいよいよダメか…ということでしょうか。

イエスは生前、人気抜群で支持率80％以上はあったのではと思うほどでしたが、正直に生きることをやめなかったせいで、支持率10％になりついには支持率6％位で人生をしめくくりました。上手に世渡りをしませんでした。

ところがイエスが亡くなった後、人々の心の中に生き生きとよみがえってきて、この世にキリスト教という新しい群れが誕生しました。この群れは迫害を受けたり自らも過ちを繰り返しながらも、広く世界中に広められました。

クリスマスは支持率ほとんど0％に近く希望の持てない人の人生に、イエスが本当に誕生して、もう一度生きていくことが出来るようになるという良き知らせ（福音）を告げ知らせています。

温かなこころ通わすクリスマス、年末年始でありますように。

平成24年度 介護職員等によるたんの吸引等のための研修

看護課
稲数富美子

「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正により平成24年4月から介護職員によるたんの吸引等の医療行為が実施できることになりました。今回、不特定多数の者を対象にたんの吸引等を実施するための研修を、大分県社会福祉介護研修センター・大分県看護研修館・大分県地域介護実習普及センターいずみの園の3ヶ所で開催が決定され当園では、7月から研修が実施されました。基本研修10日間、50時間の講義及び筆記試験の合格者がシミュレーション演習に進み、実地研修を行いました。筆記試験は、全員合格し介護職員の意気込みを感じました。シミュレーション演習や実地研修は、看護師の役割も大きく講習会を受講し指導者となり、介護職員と共に協働し、必要な医療的ケアをより安全に提供できるよう介護職員の養成にあたりました。

看護課中島課長とシミュレーション演習の説明

楽一通り楽市楽座秋祭りに参加しました

10月21日（日）、「いずみの園かきぜサポートセンター」の近くの蛎瀬、豊後町を通る通称楽一通りで、「楽一通り楽市楽座秋祭り」が開催され、当園も今年で9回目の参加をしました。

朝から晴天で行楽日和のなか、地域の方にお手伝いを頂き、つきたてのお餅の販売、風船の無料配布を行いました。若い職員は餅をちぎったり餅を丸めたりの経験がない職員も多く、地域の方に教えてもらいながら楽しく行っていました。今後も地域の行事に参加し、微力ながらまちづくりの一翼に加わっていきたいと思います。

お手伝いくださったすべての方この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。

（かきぜサポートセンター）

編/集/後/記

メジロの眼

『最後のごぜ』

10年ほど前、新潟県の特養において105歳で亡くなった「最後のごぜ」と言われた小林ハルさんが印象深い。彼女は生後すぐに視力を失い、5歳から三味線や語りの修行に親方に引き取られ、70歳まで越後地方を中心に唄や三味線で生きる術を得た。

老いて彼女が入所した特養で語った昔日の記憶は、つらく過酷な日々も反面教師としての思い出となっていたが、「ひどい親方と巡る旅は修行、いい親方と巡る旅は祭」と語る言葉が今も残る。

メジロは遺伝子を残すことと食べることだけが最大の仕事と勝手に思うのだが、優しい陽向や厳しい季節の自然の中での毎日は「修行」なのか「祭」なのだろうか。

Since1978
いずみの園だより
●編集・発行 社会福祉法人 九州キリスト教社会福祉事業団 介護保険総合ケアセンターいずみの園 〒871-0162 大分県中津市永添 2744 TEL0979-23-1616 (代)
http://www.izuminosono.jp E-mail:sogocare@deluxe.ocn.ne.jp

創立記念感謝祭
第14回 いずみの園フェスタにご来場ありがとうございました。

10月20日（土）10：00から第14回「創立記念感謝祭いずみの園フェスタ」がいずみの園の敷地内で行われました。

当日は朝から天候に恵まれ、たくさんの方にご来場いただきました。

会場では、ステージコーナー、バザーコーナー、屋台コーナー、餅つきコーナーなどでにぎわい、来場者数は2,000人を超え164人のボランティアの方々のご協力をいただき、ご利用者の方や職員を含めると3,000人にも及び、予定した14時すぎに、大盛況のうちに終了することができました。

ご来場いただいた方々、高校生はじめ多くのボランティアの方々、また、地域において駐車場の提供などにもご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

（いずみの園フェスタ実行委員会）

「中津だよ！全員集合!!」に出展しました。

10月27日（土）と28日（日）の2日間、中津市内にあるダイハツ九州アリーナで行われた、「社団法人中津青年会議所」主催の「中津だよ!全員集合!!」で、地元企業を紹介する魅力発信ブースのヘルス部門に「いずみの園」が出展しました。

ブースでは、介護保険相談、健康チェック・医療相談、高齢者疑似体験、機能訓練機器体験、お子さん用のゲームの他、パネルや映像での「いずみの園」の紹介や、高齢者の食事、防災備蓄についての展示も行いました。

初日はあいにくの雨でしたが、それでも多くの方にご来場いただき、2日間合わせて1,400人以上の方に「いずみの園」のブースに来ていただきました。

たくさんの方のご来場、誠にありがとうございました。

（経営企画室）

クリスマス祝会

介護課 前田 裕司

いずみの園では毎年12月にメイン行事である「クリスマス祝会」を開催します。祝会ではチャプレンのクリスマスメッセージに耳を傾け、その後食事や催し物などが行われ、楽しい時間を過ごします。

11月になるとそのための準備に入ります。特養事業部を始め他部署の方の協力を得ながら「ハンドベル」の練習が始まります。クリスマス祝会にむけ、毎日夜遅くまで練習です。当日はスタッフによる楽しい踊りも披露されます。また、ハンドベルの素晴らしい演奏は参加者をうっとりさせます。今年はどのような曲が演奏されるのか楽しみです。祝会も終わりに近づく頃、イルミネーションと花火のコラボレーションが始まり「ウォー綺麗」と言う歓声に包まれます。ご利用者の方から「また、来年も参加できるように元気に過ごそう」とう言う声も聞かれ、「来年も頑張るぞ」と言う思いになります。

今年は12月20日にクリスマス祝会を開催します。職員一同、心をこめて準備していきたいと思います。ご利用者の皆さん楽しみにしていて下さいね。

写真は昨年のクリスマス祝会のものです

ワークセンター起工式

11月15日（木）、建設予定地となる「いずみの森」敷地内で、2013年4月1日事業開始予定の就労継続支援A型（10名）・B型（10名）事業所いずみの園ワークセンター「シャローム」の起工式が、牧師である堤チャプレンの司式により執り行われました。

この事業は障がいのある人の働く場を作り、その利用者が地域社会で自立した日常生活を営むことが出来るように支援することです。共生社会の実現に向けて位置付けることになります。

来賓として5名（写真右）の方に参列いただきましたが、施主としての理事長から糸賀一雄先生の「この子らを世の光に」の言葉とそれにちなむ聖句を引用し、当法人の理念である「キリスト教の愛と奉仕の精神」を反映する事業としていきたいとのお礼の挨拶で式を終了しました。来春から障がいのある人の新たな生活が始まります。

（障がい事業準備班）